

# もんし

発行所 光山寺  
〒758-0063  
萩市 大字山田4553  
TEL (0838) 22-1370  
http://kousanji.net

とにかく  
お慈悲の力は  
ぬくいでああ  
足利源左

# 伝統報告法要の日程決まる

平成二十六年六月に本願寺の第二十五代の門主・専如さまが法統を継承されました。(一般寺院でいう住職継職にあたりません)また、平成二十七年一月の本願寺での御正忌報恩講法要では、伝灯奉告法要(一般寺院でいう継職法要)について、「このたびの法要が、親鸞聖人によって明らかにされた阿彌陀如来の救いのほたらきに依りながら、時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものでありたいと思います。宗門では、親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年に向けて新たな長期計画が策定されます。皆様の積極的なご協力とご参画を心からお願いいたします」と述べられ、宗門総合振興計画も策定されました。

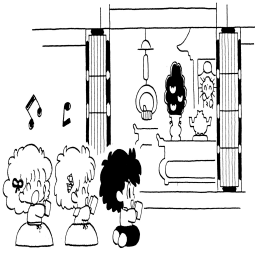


このたびの伝灯奉告法要の修行期日は本年十月より全十期八十日八十座が予定されており、萩組では来年三月二十八日(約百二十名募集)が参拝予定日として設定されました。是非ともこの代替わりのご縁に共にお会いしましょう。

また、この度の伝灯奉告法要並びに親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要・記念行事を推進するために、光山寺の全ご門徒、広く有縁の皆様方にご懇志等のご協力を今春にもお願いする事となるかと思ひます。その際には宜しくお願い致します。

## ■子供報恩講へご参加ください

一月十六日は宗祖親鸞聖人のご命日、毎年一月の日曜学校は、「ごども報恩講」と称して、お勤めの後、お齋にゲームと子供達と父兄も一緒に楽しい時間を過ごしています。毎年多くの皆さんに参加いただいています。小学生までのお子さんがいっしょやる父兄の皆さんにおかれましては、お正月の子供報恩講に是非とも一緒にご参加下さい。参加費等は無料です。



日時：一月十一日(月曜)、祝日)午前十一時〜午後二時頃  
会場：光山寺本堂にて

## ■仏教婦人会研修旅行

仏教婦人会(会長、河村一江)では、十月二十七日に光山寺仏教婦人会三十周年を記念して研修旅行を開催した。副会長の野村京子さんからのご報告を掲載します。



「光山寺仏教婦人会再編成より三十年を迎える記念行事として月性の生まれたお寺、妙円寺に参加者四十一名でお参りしてまいりました。月性さんは柳井市大島の偉人で、長州藩でもっとも早くに倒幕海防論を唱えた人物で、幼少より漢学、仏教、詩学の学問を志し、吉田松陰先生の事実上の師でもあつたようです。松下村塾で学んだ久坂玄瑞をはじめ多くの人々に大きな影響を及ぼし、明治維新の大業を成し遂げる原動力となりました。月性の叔父「泰成」は茶人で詩をたしなむ名布教使で光山寺第十世のご住職でもありました。妙円寺では、ご住職さんをはじめ役員の方々にも温かくむかえていただき、月性さんについて紙芝居や冊子でわかりやすくご説明いただきました。その後、白壁の町柳井を散策し、やまぐちフラワーランドで美しい花々を鑑賞し、バスの中でも和気あいあい歓談しながらの日帰りバス研修を終えました。」

## ■仏教壮年会で研修会・忘年会

光山寺仏教壮年会(会長、来嶋健治)、文化部(野村謙次部長)研修会並びに忘年会が十一月十九日(土)午後六時より光山寺本堂にて開催されました。今年度も講師として萩博物館主任学芸員、道迫真吾氏をお迎えして、「近代日本の産業遺産」と題してご講演いただきました。昨年七月に萩市内の五カ所を含む遺産が近代日本の産業遺産として世界文化遺産に指定された経緯について話された。約六十名の参加者が話に聞き入り、研修会終了後は、光山寺仏教婦人会有志の皆さんも参加され、約四十名のご門徒と共に賑々しく忘年会が庫裏にて開催されました。尚、例年のソフトボール大会は十月十八日に開催されました。



## 光山寺行事案内

平成二十八年の光山寺前期行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

### ★萩組・光山寺法要関連

- 一月 七日(木曜) 午前十一時半 最勝講(玉江地区)
- 一月二十日(水曜) 午後七時 萩組連続研修(明安寺)
- 二月 七日(日曜) 午後七時半 門徒推進員連絡協議会(浄国寺)
- 三月 五日(土曜) 午後七時 萩組連続研修(西生寺)
- 五月一・二日(日・月曜) 春季永代経法要(講師、岡智徳氏)

### ★総代会 関係

- 一月十九日(火曜) 門徒責任役員・門徒総代一泊懇談研修会(ホテルかめ福 講師：清岡隆文氏)

### ★子供会(日曜学校) 関連

- 一月十一日(月曜) 午前十一時 子供報恩講
- 以降、二月十四日(日曜)・三月十三日(日曜)

### ★仏教青年会 関連

- 一月十一日(月曜) 午前十一時 子供報恩講と同時間
- 三月二十七日(土曜) 午前十時 山口教区仏教壮年大会(山口別院、講師：釈徹宗氏)

### ★仏教壮年会 関連

- 五月 下旬 午後七時半 光山寺仏教壮年会総会

### ★仏教婦人会 関連

- 一月二二日(金曜) 萩組若婦人会交流会
- 二月 下旬 光山寺仏教婦人会常任委員会
- 四月 中旬 全役員会
- 五月十五日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式

### ★親鸞聖人讃仰会(登録制・要年会費二千元)

- 四月十八日(月曜) 午後八時、六月二十日(月曜) 以降、隔月原則月曜日、午後八時庫裡にて開催。十月まで四回開催

### ★礼讃の夕べ(旧、正信偈唱和会、一般参加可・無料)

- 五月十四日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 六月十一日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 七月 九日(土曜) 午後八時 光山寺本堂

### ★雅楽練習会(原則日曜午後七時半。不定期開催)

- 一月二四日(日曜) 午後五時半 新年会を兼ねる
- 三月二三日(日曜) 午後七時半

### ※コーラスの日程についてはお問い合わせください。

■募金箱報告■

WWFJ(世界自然保護基金日本委員会)の募金箱(本堂焼香卓の横)に集まった募金九千六百六十三円を昨年十二月二十一日に送金致しました。(半年に一度送金)沢山の募金大変に有り難うございました。今後ともご協力宜しくお願い致します。

■初参式のお知らせ■

親鸞聖人の誕生月である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施しています。今年も五月十五日(日曜日)午前九時半より光山寺にて開催されます。生後一年くらいまでのお子さんが対象となるが、仏の子として育つため仏教のご縁に初めてあう合同の初参式です。参加希望の方はお子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。尚、当日参加できない方は個別の初参式や自宅での初参式も受け付けていますので、是非お申し出ください。

■親鸞聖人鑽仰会会員募集！■

親鸞聖人のみ教えを鑽仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人鑽仰会」を今年も四月十八日よりスタートします。新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず広く親鸞聖人のみ教えを仰ぐ方々の集まりです。年度会費は二千円で二ヶ月に一回の開催。本年度からは、「正信偈」の内容を学ぶをテーマに、「季刊せいもん」をサブテキストとしながら学習します。『浄土真宗聖典(註釈版)』が必要となりますが、お持ちでない方は当日お申し出ください。原則偶数月、月曜日午後八時開催となります。時間にはご注意ください。詳しい申込みについては別紙をご確認ください。



■法話「功用と無功用」■

北海道教区 藤木龍珠

「帰三宝偈」に功用と無功用という言葉が出て参ります。功用とは努力という意味で、無功用とは努力しないということではなく、努力しても努力しているという思いが全くないということ。如来さまが私をお救い下さるのに助けてやるということがない姿を無功用と言います。お互いはちよつとでもよいことをすると、してやったの思いが残るのが私の姿ではないでしょうか。

小学校四年生の時、光を失った神田知佳ちゃんが作文に心が冷たく凍り付いた少女は「光と自由を失つてもつと素晴らしいものがあることを知りました。それは人の心の優しさということ。毎朝電車に乗るときまつて学校の近くの信号まで手を引いてくれた人の手の温もりからでした。」でもふと疑問に思うことがあります」と立ち止まり、そこから新しい展開があるのです。「それは与えられることが多く、与えることが少ないものが本当に人の心の優しさを理解することができるであろうか。いつの日にか与える喜びを通して与えられる有難さの本当の意味を私は知らなければならぬ」と。

■仏教豆辞典「迷惑」■

「小慈小悲もなき身」と痛み「いよいよ本願はたのもしくおぼゆる」とみ仏をたたえられた親鸞さまの徹底した命の世界を深く味わうなづくことでもあります。(テレホン法話集「いつでも どこでも」(第二集)より転載)

「迷惑を、おかけいたします。」「迷惑千万だ」から「近所迷惑」「迷惑駐車」まで、迷惑はいやなめにあつて、困ることを意味する日常語としてよく使われています。

迷惑は、もともと、道理に迷い、とまどうことで、どうしてよいかわからないで、途方にくれることを意味していました。親鸞聖人は、仏の慈悲に包まれ、仏の力に生かされながら、なおも愛欲の絆にしばられ、名利を求めてさまよう自分に対する深刻な内観から、「悲しきかな、愚禿鸞、愛欲の広海に沈没し、名利の大山に迷惑して…」と『教行信証』に記しておられますが、その「迷惑」が、まさしく、この意味なのです。

■念仏者列伝「足利源左」■

因幡の源左(いなばのげんざ)、一八四二年(天保十三年)四月十八日、一九三〇年(昭和五年)二月二十日)は、浄土真宗の教えを日常に体現した妙好人の一人とされ、鳥取県(因幡国)青谷町(現在は鳥取市に編入)に在住した農民である、幼名は源左衛門、明治の苗字許可令以降は、足利源左(本籍名は足利喜三郎)と名乗った。

江戸時代後期の天保に生まれ、十八歳の頃、父親と死別する際に、遺言で「おらが死んだら、親様をたのめ」といわれ、寺に参り法話を聴聞し始める。ある日、山へ牛とともに草刈に出かけ、五束の草を刈り取つて、四束を牛に担がせて一束を自分で担いで帰ろうとしていたが、重くなつてその一束も牛に担がせたとき、阿弥陀仏にすべてを任せる」と良いのだということに気づき、信心をいただいたという。

その人生は父親が亡くなった後も苦難が多く、息子二人が精神的に弱かつたり、火災にあつたりしたが、それらを苦にすることもなく、飄々とした人生を歩んだ。源左が著名になつたのは、強盗が集金した金を盗ろうとした時、延々と諭しながら歩き、ついに盗れなかつたことを警察で話した、その話題が新聞に載つたことからであつた。後年納税の推進や祖父母の養育などで緑綬褒章を受けている。その言行は、浄土真宗の法味に富み、のちに聞書が多数出版されていった。

ある日、突然の雨にあつて帰り、住職に「えらいめにあつたのお」と言われて、「鼻が下に向けて付いているでありがたい」と言つたと言う。彼の口癖は「ようこそようこそ さてもさても」というものであつたという。その意味は、この私をたすけるとよくぞ誓つてくださった、さてもありがたい、というほどのもの。

手次の寺は、鳥取県青谷町の浄土真宗本願寺派願正寺。一九三〇年(昭和五年)二月二十日没、享年八十九。(ウィキペディアより抜粋)